

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・近代芸術が本来の芸術がもっていた相互的で動的な性質を喪失したことを論じた評論からの出題。
- ・本文の分量は昨年度よりも半頁ほど減少している。すべて記述説明であり、設問数も五問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(19行)に比べ16行と3行減少した。
- ・本文分量、記述分量ともに減少しているが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並とみられる。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問四がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	<input type="text"/>
出典 (作者)	福田恆存 『芸術とはなにか』(一九五〇年)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
<input type="text"/>	随筆	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 「ドラマ」と「タブロー」の対比を読み取って、誰(と誰)が何を〈為す〉のかを明確に説明したい。
		問二	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 童話劇での呼びかけがもたらす効果と映画の筋書の作られ方との違いに着眼して説明する。
		問三	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 近代劇における観客の没主体性を踏まえて、傍線部の比較の構造を反映したわかりやすい説明をしたい。
		問四	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄2行) 「自我の堆積」という表現に見合うように、文脈においての内容を簡潔に整理して説明したい。
		問五	記述式	標準	傍線部に関わらせた趣旨の説明の問題。(解答欄5行) 「芸術の創造や鑑賞のいとなみ」が本来どのようなものであるかを本文全体から踏まえたうえで、それとは対極にある近代芸術における「孤独」というものを、わかりやすく説明したい。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ではしばしば評論や随筆がとりあげられている。だが、いずれであっても、文章の主題や筆者の主張を全体からの正確に把握するとともに、個々の文脈を丁寧にたどって正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問のそれぞれがどのような意図をもっているか、その狙いを見極める訓練、その理解に応じた記述の練習を積み重ねておく必要がある。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間 120分
-----	--------------	-----------

昨年・一昨年は随筆の出題だったが、今年は評論の出題。数学者の岡 潔^{おかきよし}の思考を追いつつ、身体における非記号的な思考過程について論じた文章。設問は、何を書いたらいいかわからないという難問こそなかったが、問五など本文全体に関するものもあり、論述問題に慣れていなければ苦勞したと思われる。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	森田 真生 『数学する身体』
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	評論	問一	記述式	標準	傍線部を説明する問題。(解答欄3行)
		問二	記述式	やや難	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行)
		問三	記述式	標準	傍線部を説明する問題。(解答欄3行)
		問四	記述式	標準	傍線部の俳句がどのようにしてできたかを説明する問題。(解答欄3行)
		問五	記述式	やや難	本文全体を踏まえて傍線部の内容を説明する問題。(解答欄4行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・文系二では、昨年とは異なり評論が出題されたが、随筆や小説を含め、できるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・近世の随筆、室鳩巢『駿台雑話』からの出題であった。
- ・昨年に続いて近世文からの出題であった。
- ・漢詩が本文にあり、設問にもなっていた。漢文・漢詩からの出題は、2018年以来5年ぶりである。
- ・昨年と同様本文に和歌があり、昨年は和歌についての説明であったが、今年度は現代語訳であった。
- ・解答数は昨年と同じで五つであった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『駿台雑話』 (室鳩巢)
頻出度合 ・的中等	出典も出題箇所も稀・高3 ONEWEX京大國語Ⅱ期第五講に的中
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1120字 (前年は約820字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随筆	問一	記述式	標準	条件付きの現代語訳問題。 (1) 「さても」の指示内容、「心あらん友」を内容がわかるように訳すこと、「もがな」、「ゆかしう」「折ふし」などの重要文法・古語の訳出がポイント。 (解答欄2行)
		問二	記述式	標準	(3) 和歌の現代語訳。「あるじする」「いそぎ」「ありく」、「めや」の重要古語・文法の訳出がポイント。さらにその上で、和歌の詠まれた状況を踏まえるところがやや難しい。(解答欄3行)
		問三	記述式	標準	説明問題。「直前の兼好『徒然草』の挿話にも触れながら」という条件付きの説明問題。傍線部の指示内容の具体化、「あなた」「かく」「こなた」などを兼好の挿話を踏まえて具体化するところがポイント。(解答欄5行)
		問四	記述式	やや難	「この考えに至る経緯を含めて」という条件付きの説明問題。「いかさまにも申し」をそれまでの本文の内容から具体化するところがポイント。(解答欄4行) 漢詩の意味の説明問題。設問に引用された故事を踏まえるという条件が付いている。「愧ヅ」の意味が難しい。「吾」と「客」の対比を説明するところがポイント。(解答欄3行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・近世からの出題は、京大文系古文の一つの流れなので、今回出題された随筆や昨年出題された歌論にも慣れておく必要がある。
- ・一昨年までの2年間は有名出典、平安時代の作品だったので、以前も出題されている『源氏物語』を代表とする平安時代の典型的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・今年も和歌についての設問があった。修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。
- ・今年も以前も出題された漢詩の意味が問われたので、漢文や漢詩を読む練習は必ずしておく必要があるだろう。
- ・現代語訳は、人物の補い、指示内容の具体化などわかりやすい現代語訳が要求されている。本文全体の現代語訳ができるかどうか京大文系古文の根本である。文脈を踏まえた現代語訳の練習がいちばんに望まれる。
- ・心情説明もよく出題されているので、慣れておく必要がある。
- ・時には、古文常識についても出題されるので、十分に学習しておきたい。